

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473500328
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄
訪問調査日	平成20年8月29日
評価確定日	平成20年12月2日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1473500328		
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会		
事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄		
所在地 (電話番号)	横浜市栄区田谷町1249 (電話) (045 - 858 - 3330)		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年12月2日

【情報提供票より】(20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24人	常勤 14人, 非常勤 11 人, 常勤換算 6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建ての 1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,000 円	その他の経費(月額)	51,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (450,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	13 名	要介護4	4 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	65 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公田クリニック 湘南鎌倉総合病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは大船駅からバスで5分と利便性が高い。周辺は緑に囲まれ畑が多く閑静である。平屋建ての3ユニットが広くゆったりと建っている。敷地内には駐車場、野菜畑がある。
各ユニットとも居間・ベランダを通じて芝生の中庭に出られる造りとなっており、散歩や水遣り、イベントなどに有効に活用されている。各棟の中心には調理や生活空間を楽しめるアイランドキッチンが設置され、各居室には洗面台、トイレが備わり、清潔に管理されている。
法人の7つの行動指針「クロスハート・ベーシック」から各ユニットの職員全員で毎月1つの目標を定め、ケアの実践に取り組みサービス向上に努めている。嘱託医・協力医があり、訪問看護ステーションによる24時間の医療連携体制が取られている。毎日のケア記録を家族の訪問時に見てもらい意見や要望を聞いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価については例年改善に取り組み成果を挙げてきたが、昨年度は管理者・ホーム長の異動等もあり、改善点の見直しは行われていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめ全職員が外部評価・自己評価の意義を理解し、ホームを客観的に捉える機会と認識している。全職員が自己評価に取り組み、ホーム長が集約して各ユニットごとの自己評価を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域との連携や協力、交流は行われているが、運営会議の開催に向けた取り組みまでには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、利用者の健康・生活の様子を載せた便りや預かり金明細、ホームだよりを家族に郵送している。来訪時には毎日の記録・ケアノートを見せ、要望や意見を聞いている。家族懇談会は外部のレストランやイベント開催に合わせ年4回程実施している。悩みや事例を話し合い、情報交換し、家族からは有益であるという感想が寄せられている。意見、苦情はユニット会議で話し合い、申し送り等で伝達している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の人々とのつきあいは日常的に行われている。町内会に加入し、会合への出席や清掃活動、防災訓練等に参加している。盆踊りへは、車椅子を使用している人を含めて利用者全員が参加した。大家さんの畑を借り野菜を栽培したり、利用者が外に出てしまった時には、商店の協力があったり、近隣の方が話し相手や音楽のボランティアとして来訪してくれるなど地域と連携している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人は理念の「すべてのよきものを人生の先輩たちに捧ぐ」を基本とし、7つの行動指針「クロスハートベーシック」を定めている。法人内グループホーム部門の本年度方針は「スロー・キャッチ・スロー」(投げ・受け・投げ返す)・「伝えたいこと伝わった」とし、コミュニケーションを大切にすることを明示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は月1回の職員全体会議・ユニット会議・日々の申し送り等で、理念・方針に基づくケアのあり方の説明・確認をしている。クロスハートベーシックの中からユニット毎に月の目標を定め、実践に取り組み、月末にはその成果を評価している。各ユニットには理念・方針を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人々とのつきあいは日常的に行われている。町内会に加入し、会合への出席や清掃活動、防災訓練等に参加している。盆踊りは、車椅子を使用している人も含めて利用者全員が参加した。大家さんの畑を借り野菜を栽培したり、利用者が外に出してしまった時には商店の協力があったり、近隣の方が話し相手のボランティアとして来訪してくれるなど地域と連携している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者他全職員が外部評価・自己評価の意義を理解し、ホームを客観的に捉える機会と認識している。全職員が自己評価に取り組み、ホーム長が集約して各ユニットごとの自己評価を作成した。外部評価については例年改善に取り組んできたが、昨年度は管理者の異動等もあり、改善点の見直しは行われていない。		日常の会議で提案される課題については、改善への取り組みが行われているが、昨年度の外部評価で課題として挙げた事項については未着手である。本年度の評価結果を含めて課題に対する改善計画を立て、リーダー等の異動があってもスムーズに実施できる引継ぎの仕組みを築くことを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との連携や協力、交流が行われているが、運営推進会議を開催するまでには至っていない。		地域住民や利用者、家族、行政、地域包括支援センターなど事業所に関する人達に対して、運営推進会議開催に向け積極的に自らアプローチしていくことが望まれる。地域に情報発信し、相互理解を深め、施設への意見や要望を捉えるなど、より良い運営を図ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の適用や入居について区の高齢福祉課に相談している。入居者の安全に対して、区や警察と連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、管理者から「ホーム便り」、職員から利用者一人ひとりの健康面や生活の様子を載せた手紙、預かり金明細を家族に送付している。来訪時には写真や毎日の記録であるケアノートを見てもらい、要望や意見を聞いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会は外部のレストランで開いたり、イベント開催に合わせたりして、年4回程行われており、会には全体の7割の参加がある。家族の悩みや事例を互いに話し合うなど情報交換が行われ、家族からは有益であるという感想が寄せられている。相談や意見、苦情はユニット会議で話し合い共通する内容は申し送り等で伝達している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1～2年リーダークラスの異動・退職が多かった。引継ぎ期間は1ヶ月とし、利用者には理由を説明している。ユニット間の異動では、利用者や職員の馴染みの関係に配慮している。職員の異動等があった場合に家族まで情報が伝わらなかったケースもあった。		職員の異動や退職を最小限に抑え、異動等があった際は利用者や家族の不安軽減をさらに工夫することを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が立てられ、法人内研修や外部研修に積極的に参加している。ホーム長の指導の基にOJTも実施している。職員が自主的に受講した研修に対しては、本年度から時間や費用をホームが負担する扱いとした。研修後は報告書を作成し、月1回の全体会議で報告し、活用が図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区やブロックのグループホーム連絡会を通じて、近隣の事業所と情報交換会や、互いのホームで研修する3日間の交換研修を実施している。法人内のグループホーム連絡会で管理者やケアマネジャー、計画担当作成者などによる事例検討会や医療に関する研修等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者が入居前にホームに来院した際には、一緒にお茶を飲んだり体験入居を行い、雰囲気を知ってもらうよう努めている。入居の申し込みがあれば訪問し、本人や家族の状況を聞いている。家族から本人が落ち着かない時の対応の仕方を教わったり、利用者のなじみのものを持ち込み、心安らげる環境づくりに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は人生の先輩から教わるが多いと感じている。入浴介助の時や利用者が眠れない夜には、戦争体験や家族の昔話を聞き、喜びや悲しみを共にし、人生の生き方を学んでいる。言葉遣いやお辞儀などのマナーを共に暮らす中で体得したり、歌や裁縫を教えてもらうなど、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の訪問調査や入居時に本人や家族の希望や意向を聞いている。生活習慣・ADL・趣味・嗜好品等のアセスメント結果と共にホームの生活に反映できるようにしている。意向の把握が困難なケースでは、事前に把握していることや生活の中で気づいたことをもとに利用者の気持を汲み取っている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>管理者・ホーム長・ケアマネ・職員が参加し、ユニットごとに毎月ケース会議を開き、利用者個々の状況の共有や介護計画の検討・作成を行っている。利用者・家族の希望、医師・看護師の所見、日ごろの観察やケアの中での気づきなどを検討し、現時点で最も必要なことを優先しながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のケース会議でプランの見直しや評価が行われている。見直しは本人・家族の希望や医師・看護師の所見も取り入れ、職員全員が参加して行っている。毎月3名程度、3ヶ月に1回現状に即した介護計画を作成している。入院等利用者に変化が生じた場合には、その都度見直し、現状に即した計画変更を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の運営するデイサービスの音楽レクリエーションに参加したり、特養のレストランで食事を楽しむなどの支援が行われている。24時間対応の医療連携体制がとられている。お花見や水族館見学など各種の外出支援を実施し、利用者の生活を豊かなものになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診する利用者と希望があればホームの嘱託医にかかるケースがある。内科嘱託医は2週に1回、整形は月2回、歯科医は週1回、精神科医の訪問診療もある。外部の医療機関へは家族もしくは職員が付き添っている。訪問看護ステーションによる24時間の医療連携体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	容態悪化時や終末期に向けた方針の説明が契約時に行われ、利用者・家族と事業所側との共有化を図っている。容態変化の際には、今後の変化・予想について、家族・主治医・関係者・職員間での話し合いに基づき対応する。ターミナルケアを実施することも可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の使用目的については契約時に説明し同意を得ている。個人情報を含む書類や記録は、鍵付きの戸棚に保管している。利用者の気持ちを大切に誇りを損ねるような対応や言葉かけの配慮について会議等でも常に確認しあっている。各居室には、洗面台とトイレが備えられ設備面からプライバシーへの配慮が見られる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間、趣味等利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、朝10時の起床でも対応できる体制となっている。最近要介護度の高い方が増え、希望に添えないケースもあるが、室外での散歩などできる限りの支援を行っている。孤立することなく楽しく過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食料品の買い物に同行したり、食器拭きや後片付けに参加している。調査時には、料理を手伝う姿も散見された。畑で取れた自家製野菜を調理し皆で味わっている。職員は食事介助を行いながら、共に食事を楽しんでいた。好きなメニューのリクエストを聞いている。食事は美味しく食材や彩りも豊かで好評である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には午後実施し、週2～3日の入浴となっている。利用者の意向を取り入れ、毎日の入浴や時間変更、同性介助も行っている。入浴を好まない人へは時間を変えたり、異なる職員が誘ってみたり、工夫しながら清潔に日々をすごせる配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好みや趣味に合わせた役割や楽しみの支援を行っている。マージャン、花の水遣り、散歩、裁縫、外出、展覧会、畑での野菜作りなど利用者の好みや力を生かしている。重度の方へは音楽ボランティアの歌を聴いたり、手・足浴などで爽快感を得られるよう気晴らしの取り組みを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の買い物に同行したり、数人で外食やお茶、展覧会、スーパーでの買い物等へ出かけるなど外出支援を行っている。歩行が困難な人へは、スーパーで、車椅子やカートを押しながらの歩行を助けたり、中庭やサンデッキの散歩に付き添っている。地域の盆踊りは車椅子の人も参加し、外の空気や地域社会に触れるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室は常時開放している。玄関は夜間以外は開放しており、中庭を挟んで3ユニット間の往来ができる環境となっている。落ち着かない人には所在確認が10～15分間隔で行われ、スタッフ同士で声を掛け合っているが、門扉は施錠している。利用者が外に出ってしまった場合に備え、近隣、区職員、警察、消防署、タクシー会社等と連携・協力体制を敷いている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との防災協定を結び協力体制を整えている。年2回定期的に消防署や地域の方に参加してもらい防災訓練を実施している。訓練内容は、避難訓練、火災通報装置や消火器の使い方等である。非常用食料として水や米などの備蓄も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の記録をつけたり、訪問看護師による体重測定・栄養摂取状況の把握により利用者の体調管理をしている。摂取が困難になった場合は、医師や看護師に相談し、代用食等で栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建て3棟で各棟とも採光・通風よく居心地の良い環境である。中庭には芝生が植えられ、各居間から出入りでき、憩える空間である。居住空間はすべてバリアフリーで車椅子対応可能であり、床暖房である。台所は各居室の中央に位置し、アイランドキッチンを備え利用者が使用しやすい設計である。壁面には利用者の絵画などが飾られすっきりとしたレイアウトになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く、天井まで届く収納戸棚、洗面所、トイレが備わり清潔である。利用者の馴染みの家具、趣味や家族の写真などが置かれ、居心地よく生活している様子が見られる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	クロスハート田谷・栄
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市
記入者名 (管理者)	田村 彰康
記入日	平成 20年 7月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「すべてのよきものを人生の先輩と後輩に捧ぐ」の理念のもとケアとサービスを提供している		よく見える場所に理念を掲示している。 田谷独自の理念は無いので考えていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、全体会議にて管理者が理念に基づいてケアについて確認・説明している。		今後もこの状態を維持していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には提示しているが、地域には理念の提示、説明は行っていない。		町内会の会合等で提示、説明を行っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	大家様がそばに住んでおり、ご自分でお持ちの畑の一部を貸して下さっている。 近所にお住まいの方が週に1回傾聴ボランティアとしてきて下さっている。		今後もこの状態を維持していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会合や行事等に参加したり、季節の挨拶に伺ったりして管理者が顔を出している。		盆踊りや町内会の清掃に参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内の業務に集中してしまい、取り組めていない。		全体会議の場で話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表並びに外部評価の資料はスタッフ1人1人にコピーを渡しており、どのようなサービスを求められているか確認している。		今後もこの状態を維持していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催できていない。		スケジュールを考えて、行っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会等を通じ市区との担当者の話を聞いている。		グループホーム連絡会等での市や区の担当者の話を聞く機会はあるが、個別では持っていない。今後、関わりを持っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は新規入居の際にご家族に地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についてご説明はさせて頂いている。		職員は権利擁護や後見人制度等の外部講習への積極的な参加をしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での利用者に係わる事故・怪我等は発見者が報告書の作成と共に管理者の調査を行い、虐待の有無の確認と注意を払っている。		区で開催される虐待についての講習会への参加をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書と契約内容をご家族と共に読み合わせ、確認、質疑応答を項目ごとに行っている。</p>		<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご自分の意見、要望を訴える事が困難な利用者が多いが、毎月数名ずつではあるがカンファレンスを行い、何が足りないかスタッフが話し合い、確認している。</p>		<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ご家族の皆様宛にスタッフからのご利用者のご様子をお伝えしている。金銭管理については、個々に出納帳を作成・記載し領収書のコピーを事業所が原本をご家族にお送りし、お預かり金の残金も同時にお知らせしている。</p>		<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情担当窓口をご説明し、ご来訪時にも問い掛けをさせて頂いたり、ご家族からの意見・苦情はできるだけその都度時間をとって面談させていただいている。</p>		<p>ご家族からの相談や意見については表にまとめてカンファレンスに活用していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議の前に意見を求めそれについての話し合いを行っている。</p>		<p>会議以外での意見交換の場も作っていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個別対応等で事前にわかっている場合は+ したり、突発的な場合は管理者や人材派遣を活用し対応している。</p>		<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動を行う際は利用者の状態を把握しているスタッフを数名残し、ご利用者やご家族への安心感を持ってもらっている。</p>		<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でのケアプランについての勉強会や外部研修への職員参加を促している。		今後もこの状態を維持していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等を通じ近隣の事業所との意見交換を持ち、交換研修を通じてよいところを学んでいく。		今後もこの状態を維持していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	残業時間が減るようにシフトや業務分担を考え、シフト作成時には希望休を聞き、承認している。		職員間での交流の場をセッティングして、レクリエーションにも取り組んでいきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員面談を行い、どういうことをして行きたいかの希望を聞き、その要望を踏まえ研修などに参加していただく。		全員の要望を聞くことには至っておらず、不完全である。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居前に訪問調査を行い、今までの生活スタイルや趣味嗜好などを聞き、ホームでの生活にできるだけ反映している。		これからも、できるだけ聞きだし、反映して行きたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の申し込みの段階からグループホームにおけるサービスを説明し、求めている物に合うか相談し、訪問調査時にも改めて説明しご家族と共に確認している。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」のご本人様の状態とご家族様の考えを考慮し、他の事業所やサービスが適切と考えられる場合はその他のサービス機関への紹介している。		今後も個々にあったサービスを紹介していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居前に、今いらっしゃる方との交流が持てるようにご家族・ご本人にホームへの来訪を提示している。		提示はしているものの、なかなかご入居前の交流は実現していない。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人様が今まで歩んできた人生経験を尊重し、できることを進んでご本人様ができる環境を作り、生活をしていく上でわからないことはスタッフ間で話し合うのではなく、ご本人様に入っただき、共に考えていける関係を築いている。		現在、ADLの低下と共になかなか共に考えていく機会が少なく、介護者主体になりつつあるので、解消していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族と職員と一緒に生活を考え、常に連絡を取り合い、相談・確認するようにしている。		定期的にご家族と共に生活を考える機会が持ていないので、できるだけ短い期間で持って行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現在までに構築された家族関係と認知症への理解を考慮し、潤滑剤として二者間の間に入り、お互いがよりよい関係を作れるように心がけている。		今後もこの状態を維持していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通してのご友人の来訪や個人宛のお手紙のお返事を書くお手伝い等をしている。		今後もこの状態を維持していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なかなか居室から出て来られない方へはスタッフが寄り添い、信頼関係を築き、そのスタッフを中心に輪の中へ入って頂く。共通の話題作りをして、ご入居者同士が会話できるように勤めている。		どうしても会わない方たちがいらっしゃるので距離を保って間に入っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族からのご相談の連絡があれば対応しているが、特にこちらからアプローチはしていない。		今後もこの状態を維持していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居前やご入居中でも定期的にあセスメントを取り、ご入居者の状態を確認している。		ご利用者様の意思をうまく汲み取ることができず、安寧な生活を送ることがメインになっている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の訪問調査や入居後にもご家族に生活習慣や趣味・嗜好品を聞き、それをホームでの生活に反映させている。		今後もこの状態を維持していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中での様子から、できる事出来なくなってきた事を観察しながら状態を把握している。		今後もこの状態を維持していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行われるケース会議にてスタッフが対象者に対し「何が今、必要か？」を考え、アイデアを出し介護計画を作成している。		ご家族からの意見・要望がうまく聞けず、介護計画にうまく反映できていないので、来訪時等に深く突っ込んでいきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	直接介護に携わるスタッフがケアマネージャーに意見を言える関係にあり、必要に応じてご家族と連絡を取り、現状に即した介護計画や介護度の変更を行っている。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録と共に個人別のケアノートを作成しており、違う目線でご入居様を観察し、情報をご家族と共に共有し介護計画に反映している。		今後もこの状態を維持していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族とのお祝いの場所の提供や、希望があれば宿泊も可能であり、面会も連絡をいただければ24時間可能や、その日に行事を決めたりなど柔軟に対応している。		今後もこの状態を維持していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向は聞き取れていないが、コーラスグループの定期的な来訪や、傾聴ボランティアの来訪、消防団との避難訓練を行っている。		地域の方たちとの協力・支援体制を構築していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設などへの移動の際に円滑に進むように、やり取りをしている。		まずは地域のその他のケアマネジャーや事業所と連絡・協力関係を築いていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには事業所見学をしていただいている。		更なる連絡・協力関係を築いていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望があれば、事業所で嘱託医・訪問看護師と契約しており24時間支援の連絡体制をとっており、急変時にも対応できるようになっている。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	4週に1度、精神科医の往診があり、受診者の相談に乗った頂いている。ご家族の希望や了解が得られれば速やかに受診していただいている。		今後もこの状態を維持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携している訪問看護ステーションの看護師が週1回来訪し、支援している。		今後もこの状態を維持していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は管理者、職員共に頻繁にお見舞いに行き、病院の看護師や医師に現状を聞き、ご家族とも連絡を取り合い、退院の許可が下りればホーム内での準備を整えおむかえしている。		今後もこの状態を維持していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご入居前にご本人様の意思が訊ければ反映させて頂き、ご家族様の意見も聞き、いざ重度化した場合は改めてご家族との意思確認を取りスタッフと共有している。		今後もこの状態を維持していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師や看護師の毎週の来訪時に現在の状態確認と、予想される今後の変化について確認しご家族にもその旨を伝え、支援を行っている。		今後もこの状態を維持していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先とは事前に連絡窓口を1本化し連絡を取り合い情報を共有し影響を最小限にするように努力している。転入の場合も同じである。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録や個人情報に関する書類は目の着くところには置かず、戸棚の中に入れておくことを徹底し、言葉掛けや対応にも会議等で常に注意を促している。</p>	<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何事にも言葉掛け、確認をご入居者様に取り、支援を行っている。</p>	<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床や食事時間・入浴等ご入居者様のペースに沿って支援を行っているが、ADLの低下に伴いなかなかご入居者様のペース・意向にそって行えなくなっている。</p>	<p>支援のタイミングやスタッフを代え無理の無いように行っていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご入居者様やご家族の意向を伺い、可能な方は地域の美容室や床屋へお連れしたり、訪問美容師を利用したりしている。ご希望があればPOLAから訪問の美容部員が月1回ありフットマッサージやフェイスマッサージを行っている。</p>	<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物への同行や調理参加は現在なかなか行えていない。食器拭きや後片付けには参加して頂ける方には積極的にお願いをしている。</p>	<p>近場での買い物には車椅子を使うなどして出来るだけ参加して頂きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎回個々の嗜好にあわせるのは行えていないが、コーヒーや紅茶など出来るだけ毎回違う飲み物、おやつを提供できるように努力している。ご家族様がご入居者様の嗜好に合わせて用意して頂いている物を適時お出しするのは可能である。</p>	<p>今後もこの状態を維持していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間と誘導時間を記録し、その方にあった排泄サイクルを考え、出来るだけトイレでの排泄を促している。		今後もこの状態を維持していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、個々の入浴のサイクルはあるが、それにとらわれず行っている。 入浴時刻に関してはこちらで決めさせて頂いている。		午前中の中の入浴や夕食後の入浴も現場の状況を見て考えていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に決まった入床時刻は無く、ご入居者様のタイミングに応じ支援を行っている。 日中の休息(昼寝)は前日の睡眠時間や、昼夜逆転にならないように注意している。		今後もこの状態を維持していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご入居以来、お掃除や食器拭き等がご自身の日課となっている方にはそれを継続して行えるように支援して行き、個々の能力に応じて新しいことにも挑戦して頂ける様に支援していきたい。		新しくご入居して下さった方がその日課にすんなり入っていただける様に環境を整え支援して行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭管理に関してはトラブルの原因になりやすいのでご遠慮していただいている。こちらで管理させていただき、ご本人様をご自身の買い物を希望されれば、スタッフ付き添いのもとご自身で支払いをしていただいている。		ご入居者様が金銭的に不安や不自由を感じさせることが無いように努めて行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物への同行や、外食・をしている。		今後もこの状態を維持していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事前に予定を組んでスタッフ数を確保しできるだけ支援している。 つい先日、新江ノ島水族館に出かけた。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば電話を掛けたり、手紙はこちらから促し、書いていただいたりもしている。		今後もこの状態を維持していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご入居のときに訪問時間の設定は無いことをお伝えして、事前に連絡をして頂ければ遅い時間の来訪も可能であることもお伝えしてある。		今後もこの状態を維持していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に範囲が無いことを管理者がスタッフに伝え、判らなことがあれば訊ける体制をとっている。		今後もこの状態を維持していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご入居者様は各棟と常に行き来できる状態を取っており、居室は1日中、玄関は夜間(20時～6時)以外は開放している。		今後もこの状態を維持していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の所在確認は怠らず、夜間も巡回時間以外でも確認を行っている。		今後もこの状態を維持していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や殺虫剤など口の中に入ると危険なものはご入居者様が手の届かないところへ保管している。		今後もこの状態を維持していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご入居者様1人1人についてのリスクをスタッフ間で認識し、個々に応じて事故防止を行っている。		1人だけに注意を集中せず、広い視野で見守りが出来るように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護師による指導の時間を作ってもらい、急変時の連絡体制の表も作成済み。		今後もこの状態を維持していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご入居者様の避難経路はスタッフが確認しており、地域の消防と共に訓練も行っている。		今後もこの状態を維持していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族へはご入居前や介護計画の更新時や来訪時に状態の変化とそれに伴うリスクを説明している。		今後もこの状態を維持していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「いつもと違うかも？」という自分への問い掛けを忘れず、変化の発見時にはユニット長へ連絡し、そこから看護師 医師という流れが定着している。		今後もこの状態を維持していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには一番新しい処方薬がファイリングされており、変更があれば確認できる。		今後もこの状態を維持していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給やヨーグルト等を使用し下剤以外の排便方法に取り組み、無排便日数にも注意し、続く様であれば看護師に確認を取る等をして、処方薬を服薬して頂く。		今後もこの状態を維持していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいやブラッシングがうまく出来ない方にも清潔が保持できるように、訪問歯科医、歯科衛生士に相談している。		今後もこの状態を維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量と水分摂取量を表に記載し、減少傾向にある方には医師、看護師に相談している。		今後もこの状態を維持していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ・ご入居様様が共同で使用するものを中止して、ランチョンマットは毎日洗濯する。乾燥時期には水分補給を促し、外出から帰ってきたら手洗いうがいを促している。		今後もこの状態を維持していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的になま板、包丁、湯呑等の殺菌を行い清潔に努め、消費期限・賞味期限の期日の確認は怠っていない。		今後もこの状態を維持していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所周辺の清掃や花壇の設置で周辺環境へも配慮し、親しみやすい建物を工夫している。		今後もこの状態を維持していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる空間作りを目指し、音楽をかけたりしている。日差しが強い日には暗くなりすぎないように、カーテンをしている。		今後もこの状態を維持していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中には食事をするテーブルのほかにソファがあり、個人の時間やご入居様同士がお話を出来る環境を整えている。		今後もこの状態を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居されるときには持ち込みの家具には制限は特に無く、安全が確保できる範囲で使い慣れたものをお持ち頂いている。		今後もこの状態を維持していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中に各居室の換気を行い、朝食が終わった時点で様子を見てリビングの換気も行っている。 温度管理はエアコンを使用し、暑すぎ、冷えすぎに注意している。		今後もこの状態を維持していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動に支障の出る家具の配置はしないように配慮している。		今後もこの状態を維持していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはテプラで名前を貼り、自室の認識が薄い方には、その都度、居室まで誘導し混乱を避けている。 トイレは基本的には誘導を行っておりトイレまでスタッフが付き添っている。		今後もこの状態を維持していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは散歩コースになっており、お一人で歩く方や、スタッフが付き添って利用していただいている。		ウッドデッキがうまく活用できておらず、ベンチはあるがテーブルが無いので工夫して利用していきたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

環境整備に力を入れ、きれいな空間作りを目指し過ごしやすい場所を提供している。
 広い中庭があり花がたくさんある。 各居室に1つずつトイレがあり、清潔が保たれている。

医療連携体制も確立されており、急変時にはすばやい対応ができる。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市栄区田谷町1249
記入者名 (管理者)	横山純子
記入日	平成20年 7月13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その方らしさを支えていけるよう、ホームで共有する理念を持っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々意識できるよう、理念を掲示している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が来訪されてもわかりやすいように掲示しており、来訪の折にスタッフが目指していることとお話するようにしている。		地域の方々にはまだ周知しきれていないと思うので、定期的に回覧板をまわしたり、行動が必要だと思う。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	社会とのつながりを保つためにも、外出や散歩の時に挨拶を心がけている。また外掃除をしながら交流を図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている行事(盆踊り)や清掃活動に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームが地域の高齢者やご家族に貢献できるような取り組みはまだできていない。		介護に関する講習会を開くなど地域の方やスタッフのレベルアップにもつながる取り組みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームを客観的に捉えられる機会と思い、より良いホームに変えるためにも、評価後はスタッフで話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未開催		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	未着手		市町村とどう連携していくのか理解を深めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部講習に参加したり学ぶ機会をとっているが、ご家族に伝えられない時があるのもっと学ばなくてはいけない。		研修の時間を作ったりミーティングの時にスタッフ間で学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故や怪我の発見時には詳しい調査、検討をいれた報告書を作成し、注意を払っている。また虐待に関する講習会に参加するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に、契約に関する内容を直接ご説明し、疑問点を伺うようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフが見落としていることがないか話し合いの場を持ち、ご入居者の意見をすぐ実践できるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族に生活の様子、お預かり金内容、スタッフの紹介を載せて郵送し、来訪時に1日の様子を記入しているノートを見て頂いて意見を頂くようにしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪の際に常に意見やご希望を伺うようにし、入居の際に窓口が誰なのかを明確にしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常にスタッフの意見を聞いて試行できるよう心がけ、毎月行う会議の議題の一つになるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト表にユニット長が不在の日がないように調整し、ご家族の希望や必要だと判断されれば派遣スタッフを取り入れたり話し合いをしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必ず馴染みのスタッフは残るように、異動の頻度もなるべくおさえるようにしている。入居者への説明を統一するようしたり混乱を防ぐようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や、外部の講習会に積極的に参加している。また、ユニット長と一緒に業務につくようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市の相互研修に参加し、近隣のグループホームと交流しサービスの質の向上をはかっている。		取り組みと検討が必要。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの希望休はほぼ適うようにしている。また順番に休憩がとれるようにシフトを工夫している。		十分な休憩がとれない時もあるので検討が必要。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修を調整したり、各自の意思を確認するようにしている。また常にアドバイスできるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聞き取りに時間をかけるよう努めている。またその内容をスタッフに伝えている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査の時点から聞き取りが多くできるよう、また求めていることに応えられるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態をよく見極め、考慮した上で必要であれば他の機関も紹介できるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来訪して頂いて一緒にお茶して頂くなどして雰囲気を知ってもらってからなどして工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や子育てを伺いながら感情を引き出すようにしながら、大先輩を支える気持ちを大切にしながら毎日お手伝いしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者をともに支えていく仲間として、ご家族の立場になって考えられるように意識している。またささいなことでもご相談するようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前のご本人とご家族の関係を理解するように努め、ご本人とご家族が穏やかに過ごせるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のご様子をお手紙で毎月郵送し、時には不安に思っていることをそのまま伝えたりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居時は時間をかけて個性を把握するように努め、それを見極めたうえで良い関係が保てるようにスタッフが間に入るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後もご家族と歌会をして頂いたり関係を保てるように努めている。		定期的にホームのお知らせをお手紙で郵送したり近況報告していきたい。
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをするようにしている。スタッフ本位にならぬよう、ご本人ご家族の立場で検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの環境などご家族を含めた聞き取りをして、ケアに活かせるように記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	部屋でのご様子、自立の程など様々な角度から把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今行っているケアと、今必要なのは何かを見極め、ご家族にも聞き取りをし、会議で検討している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院など変化があった場合やスタッフからの意見があった場合、計画変更に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎に毎日の様子など記録し、スタッフ間の共有と介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族間の集いの場としての提供や、宿泊もできるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアをなるべく受け入れているが、他の地域資源をまだ知り得ていない。		他施設の活用の仕方など検討が必要。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	未着手		他サービスの利用の仕方を学ぶ必要がある。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	未着手		他サービスの利用の仕方を学ぶ必要がある。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が馴染みの医療があればそちらとの関係を築き、往診医からのサポートを受けられるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医による往診があるのでご家族から必要があれば相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に訪問看護師が来訪しているので、ささいなことでも相談やアドバイスをもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の退院に向け、頻繁にお見舞いに行くようにし、病院側と相談できるように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事摂取が困難になったり、変化がみられればご家族と話し合う機会をつくり、往診医、ご家族の意思に沿えるように努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族とともに往診医からリスクや今後の可能性を充分検討しながらスタッフ間で検討し、準備をするようにしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの過ごされ方など継続していけるように、混乱を防げるように細かいところも情報交換するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>大先輩を支える気持ちを常に意識し、記録記入後も見直しをして注意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>まずはご本人の意向を確認してから行動するように、また、理解されやすいようにご説明できるよう心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>なるべくご本人のペースに合わせるように努力しているが、身体介護が必要な方が増え、現在はご希望にそえないことがある。</p>	<p>業務の見直しやシフト調整など今後の課題である</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご入居者がお好みの美容店にお連れしたり、ポーラによる訪問美容も受けられるようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>最近は家事参加できる方が少なくなっており、代わりに近所に買い物に行って選んで頂いたり、他分野での楽しみを検討、試行しているところである。</p>	<p>張りのある生活になるよう検討が必要</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お一人ずつ日常的に、とは難しい状態だが、ご家族に持参していただいたり、すぐお出しできるよう努力に努めている。</p>	<p>準備しておいたり工夫が必要</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録をし、誘導時間に工夫したり、少しでも減らすように工夫している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべくご本人のペースにあわせたいが、身体介護が必要な方が多いため時間帯は限定してしまっている。		入浴が楽しめるように好みのスタッフによる入浴介助や入浴剤等工夫していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活サイクルの記録をつけて安眠を図ったり、お声かけの工夫、好きな飲み物をお出ししている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方が得意なこと、楽しみ事をスタッフで把握し、支援するようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理の大切さは熟知しているが、症状が進んでしまったかたもあり、スタッフ管理にさせて頂いてる。		安心してもらえるようなお声かけをしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体介護が必要な方が多いこともあり、すぐに出かけられないことがある。		ご本人と一緒に事前に計画を立てるなど工夫が必要。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	身体介護が必要な方が多いこともあり、すぐに出かけられないことがある。		ご本人と一緒に事前に計画を立てるなど工夫が必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった時は取り次ぎをしたり、手紙書きのお手伝いをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪された際、挨拶を心がけ、家庭的な雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講習に参加したり拘束について理解しており、会議で意見を出しあって巡回を多くしたり工夫している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各棟声を掛けあって、どこにいらっしゃるか把握し、お声かけをまめにしたり努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間でご様子や所在を把握し、確認しあうように努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知が困難になった方は、危険だと判断されればご説明して保管させて頂いてるが、状態に応じて対応するようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	訪問看護や往診医から学び、アドバイスを頂くようにしている。通路に与薬時の確認作業、もしも…を想定して介助にあたるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議の時に事故発生時の一連の流れを確認するようにしている。往診医や訪問看護師に相談するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い、安全に非難できるように身につけている。		地域の方々との災害対策は未経験。地域に溶け込むホームとして一緒に検討していくことは今後の課題。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方のご状態によって考えられるリスク、具体例をお話し、ミーティングで対応を検討するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	居室にお一人でいらっしゃる時も時々伺って確認したり、経過を記録して共有できるように努め、往診医、訪問看護師に指示をもらっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現在のご病気は把握、すぐ見れるようにしているが、その薬のリスク、副作用の確認に往診医から学び、理解を深めていかななくてはならない。		学びの場をつくり、予防につなげるために検討していかなければいけない。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	往診医や訪問看護師からアドバイスをもらい、献立や飲み物に繊維物を多く取り入れたり、腹部マッサージをして予防に取り組んでいる。		管理栄養士に相談したり工夫したい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	なるべく毎食後の口腔ケアができるよう努めているが、身体介護が必要な方が多いことがあり、毎食後は困難になっている。		シフトや業務の内容を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の記録をつけ、季節や体調に合わせて飲み物をお出ししている。摂取が難しくなった時は往診医や訪問看護師に相談している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがいや手洗いをまめにしよう努めている。		流行時期にはご家族のお手紙にのせたり、来訪された際にうがい、手洗いをお願いしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンや冷蔵庫を清潔にし、食材も早めに使いきるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭の花の手入れをまめにしたり、掃除を心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室に伺った際は点検を心がけている。各居室の換気を心がけ、必要以上の光やスタッフの音量に気を付けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる所とは別に、くつろいで頂ける場所を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とも相談していきながら、ご本人と馴染みの深い物を置くようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を心がけ、日中空気の入替えをしている。居室に温度計を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまずきやすい物は置かないようにし、手すりを設置している。また不備がないかスタッフで話し合うようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の状態を見極めてお声かけのタイミングを工夫したり、その方のできることの支援に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で体操したり、花の水やりを一緒にしたり、楽しめる場所を活かし増やせるように努めている。		

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	

96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田谷はベテランのスタッフが多く、美味しい食事と明るいスタッフが多いです。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームクロスハート田谷・栄
(ユニット名)	C棟
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市栄区田谷町1249
記入者名 (管理者)	関江 ミヤ子
記入日	平成 20 年 7 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のお祭りやイベントには積極的に参加し、近所の商店には利用者とともに買い物に出かけ、地域の方との触れ合う機会を作っている		継続していきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1度の事業所の全体会議で提示された理念の一つを実現するように各棟で目標を定めユニットを掲げて実践し、また取り組みの成果を発表し合って理念の実践に勤めている		全体会議の出席率を上げ理念の徹底をはかりたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用開始時やご家族の来訪時に理念の説明をしている。GHのイベント時近所の方へも声をかけたり、見学の希望にも積極的に対応し理念を伝えるように努力している		継続していきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	建物外周の環境整備には参加できる利用者とともにやっている。近所の方の往来時には挨拶の機会を持っている		ご近所からボランティアの方が週一で来てくださっているがこのような輪が広がっていくようにしたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事参加は実践しているが自治会や老人会などの地域活動には参加できずにいる		機会があれば積極的に参加したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者のADL低下に伴い介護業務に追われ、地域の高齢者支援の取り組みはできずにいる</p>		<p>地域の高齢者の方々をご招待してと交わる機会を持つようにしたい</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価項目を各自検討して会議などで取り上げもめられるサービスなど再認識し、介護の向上に努めている。また外部評価の報告を真摯に受け止め改善すべきところは取り組むようにしている</p>		<p>継続していきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>管理者ホーム長など集まって月に一度運営推進会議がもたれており大事なことは全体会議で報告され取り組むようにしている</p>		<p>継続していきたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とのかかわりを深めていくように努めている</p>		<p>更なる努力をしていきたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部講習などに参加し権利擁護や後見制度に関して学びつつある</p>		<p>継続していきたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「すべての善きものを人生の先輩たちに捧ぐ」という理念の下に利用者には尊敬と敬愛の気持ちで接しているので虐待ということはあり得ない。言葉使いも雑にならないようにスタッフ間でも注意し合っている</p>		<p>継続していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、重要事項説明書および契約内容をすべて読み合わせをし、質疑応答野機会を設けている</p>		継続していきたい
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活をともにしつつ利用者の希望されること、不安に思っておられることなど言葉の端々態度から汲み取っている。実践できることはすぐにでも改め、大切なことはケース会議で十分に話し合っケアの向上に努めている</p>		継続していきたい
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族宛に一月のご様子を報告するお便りを出している。、スタッフ移動については写真入で紹介し送付している。預かり金に関しても領収書とともに毎月報告している</p>		継続していきたい
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>C棟玄関に苦情箱を設けご家族が気づかれたこと苦情などがあれば投書できるように計らっている。またご来訪時いつでもご意見や要望があればお聞きし、改めるべきは即あらためている</p>		継続していきたい
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送りで職員は意見を述べる機会がある。また月一回のケース会議や全体会議でも意見や提案を述べる機会があり、良い提案は積極的に取り入れられている</p>		自分の考え提案を随時伝えられる社風があり、保ってきたい
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個別対応が必要なときはケアマネや管理者などシフトに入っていないスタッフが対応してくれるし非常勤スタッフが月に13日入って様々な対応にに応じている。行事日などはスタッフを倍増してシフトに入れている</p>		継続していきたい
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>この1,2年管理者やホーム長がめまぐるしく変わったが幸いスタッフは移動が少なかったため利用者様へのダメージは少なかったように思える</p>		必要な移動は仕方がないが移動は最小限にとどめたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が都度都度適任者を選び研修を受ける機会を設けている。また職員が参加希望する研修も受講することができる。スキルをあげてより良い介護を目指している		継続していきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのGHの職員との交換研修など実施している。法人内で数箇所のGHのケアマネ・計画作成担当者が集う勉強会や医療勉強会などの学びの場を設けている		継続していきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ボウリング大会や忘年会、新入社員歓迎会などもうけ気分転換を図るようにしている。また有給休暇の取得は希望に沿って取得できる。2007年度からはリフレッシュ休暇も増やされている		職員の親睦をはかったり。ストレスを発散できる機会をもう少し増やしていきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員と個別面談をし一人一人の意見や取り組みたい目標など十分に聞き取り、目標が達成できるようにサポートしている		継続していきたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の訪問調査でしっかりと本人から話を聞き本人が望むケアを提供できるように努めている		継続していきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に家族の希望要望をお聞きしそれに沿ったサービスが提供できるように努めている。また入居後も随時ご家族の要望には耳を傾けている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や家族環境を考慮し、他のサービスがより望ましい時には該当サービス機関を紹介し検討していただいている		継続していきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問していただいたり、最初の週は通いで来ていただいたりして徐々に馴染んで頂けるようにしている		継続していきたい
C				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物をともしたり 炊事に参加していただいたり お手伝いの申し出があったり、お茶の時間はともしずわり、食事時も食卓と一緒に囲み話に花を咲かせ、ともに生活している環境を作っている		継続していきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密に取り共に支援できるようにご家族の気持ちを大切に本人を支えているまたケアノートを作成し日ごろの様子をしていただき、また家族の思い意見なども書いていただいている		継続していきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を開きご家族が体験談を赤裸々に話される機会を持った。認知症を発症されたて戸惑っておられるご家族には非常に参考になり勇気付けられた。また時間をかけてお付き合いしていくうちにご家族の本人に対する態度が変わってこられるのを経験している		ご家族の方々の認知症の理解を深めていただけるように積極的に取り組みたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が書かれた絵手紙など季節ごとに送っていただいたり、ご本人が会いたがっておられるときには電話などしてよりよい関係を保っていただけるよう支援している		継続していきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し話が弾むよう食卓やリビングの座席を工夫している。馴染めない新しい入居者には職員寄り添い他の入居者と友好関係がきづける様に橋渡しをしている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お亡くなりになった家族の方がボランティアで歌の会を開いてくださったり、移られた施設にスタッフが訪問したりしている		関わりを必要とされる方にはより積極的に関係を保ちたい
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にあったアセスメントを準備しつつある。ケース会議では本人の意向を重視したケアプランについて話し合っている		アセスメントの不備な方もおられるので徐々に完成させよりよいサービスの向上に努めたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞きとり御家族来訪時にもいろいろお聞きしてこれまでの暮らしを把握してケアに役立てるようにしている		継続していきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人お一人の性癖やADLを把握しお出来になることお出来にならないことなどを把握して毎日の生活を共にしている		継続していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月 ケース会議を開いてケアの見直しや介護計画、ケアプランの評価などについて話し合っている管理者やケアマネも参加しアドバイスを得ている		継続していきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議でプランの見直しをすると共に、必要ならばその都度見直して現状に即した介護計画を実践している		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録は「生活の記録」に記し、特筆すべき行事、出来事、言動は個人個人の「ケアノート」に記し、ご家族の意見考えなども書いていただいている。共有すべき情報は連絡ノートに記してスタッフが周知できるようにしている。これらの記録は毎月のケース会議で介護計画の見直しにも役立てている。		継続していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が自由に訪問され、ご希望があれば食事提供もしている。誕生会などもご親戚を招いてお祝いの膳を設けている。年に2~3回ご家族との親睦会なども設け食事や音楽など一緒に楽しんでいただいている		継続していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣からコーラスグループが訪問してくれ月一度の歌の会が持たれている。多くの入居者が楽しみにしている。又近くの婦人が毎週ボランティアとして話し相手や、工作の指導に来てくださっている。2~3年に一度消防署の署員による避難訓練や消火訓練の機会を持っている		もっと多様なボランティアの方々に来て頂いて生活にメリハリや興味が持てるようにしたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護ステーションより毎週来ていただいて健康チェックをおねがいしている。緊急時などにも連絡を取り医療処置の助言やヘルプを受けている		継続していきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターより問い合わせがあればお答えしたり見学希望があればお受けしたりしている		積極的な協働ができるようにしていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者は従来のかかりつけ医にかかられているが、ほとんどの方は嘱託医にお願いしておられ、月2回の往診と薬の処方がされている。又訪問看護のサービスも利用し毎週定期的に健康チェックとアドバイスを受けている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	4週に1度精神科医の往診があり利用者の諸症状に関して相談することが出来る。またご家族の希望・了承があればいつでも受診できるように支援している		継続していきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携している訪問看護ステーションの看護師と密に連絡を取り日常の健康管理のアドバイスを受け健康に暮らせるよう支援している		継続していきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院の相談員と連絡を撮り本人にとって最善の道を取るようになっている。		継続していきたい
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前に本人、もしくは家族と良く話し合ってどのような最後を迎えたいかご意向を尋ねて文章化しておくようになっている又その情報が全ての職員が分かるように個別のファイルに閉じるようになっている		全員が聞き取れていないので早急に整備したい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで静かに逝きたいとの希望があれば嘱託医のアドバイスと訪問看護師との協力を得てご希望に応えたい。医療の力が必要な時は相談して最善の道を選んでいただく		ご家族の希望や御容態で一人日一人扱いが異なってくると思うが本人とご家族が一番望まれる選択肢を取っていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	センター方式による個人ファイルの充実により本人の情報はくまなく伝えられるようになっている又移動前には十分な話し合いの機会を設けている		継続していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには注意しているし個人の誇りを損ねるような声かけは避けている	注意すべき点がないか再度点検していきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご自分で判断おできになる方にはご自分で決めていただけるように促している言葉におできにならない方には表情から読み取っている	継続していきたい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立されている方にはご希望どうりその日を過ごしていただくようにしているが介護度の高い方はどうしても一日の流れに従って生活していただいている感が否めない	介護度の高い方にも本人が願っておられるような過ごし方をして頂けるよう努めたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	体の不自由な方のために訪問美容サービスに定期的に来ていただいている。ご家族が馴染みの美容室にお連れになる方もおられる。	白髪染めリンスなどを使っておしゃれに気を配っている。訪問美容サービスにパーマや白髪染めも加わったので関心のある方にはお洒落していただきたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ食事が進むよう食べやすく煮たり、小さく切ったり一人ひとりに合わせてお出ししている。お好きなもののリクエストには耳を傾けている。調理への参加も促している。片付けは自発的に手伝ってくださる方をお願いしている	利用者が高齢になられ料理参加の機会が減ってきているがお出来になる方もおられるのでできるだけさん
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の希望を尋ねてお好みのものを十時、三時のお茶の時間にお出ししている。アルコールはお誕生会などにはお出ししているが日常的に飲みたい方はおられない。また水分制限をされている方もおられる。	お好みのものを要求できる方が少なくなってきておられるのでスタッフはできるだけ引き出して生活を楽しいものにしていただきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には定期的にトイレ誘導をし記録に残し、自立の方には必要なら声掛けを実行している		続けて実践していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しているがユニットの流れで2時～5時までの間になっており、一部の方を除いては1ヶ月の予定が組まれている		入浴を特に毎日したい方にはご希望に沿って入っていただくように変更している
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入床介助が必要な利用者は職員が見計らって誘導している。午睡も必要と思われる時は誘導している。自立の方は午睡も入床も本人のご意向に任せている。不眠の訴えの強い方は眠剤の服用を医師より指示されている		時々併せて入床時間を加減したり午睡時間を加減したりしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の好みに合わせてマージャンをされたりお花の手入れをされたり、新聞がお好きな方は居室で熟読されたり、散歩がお好きな方は園内を歩かれたり、しておられる。月に一度は外食の機会やお茶をされに外出したり、展覧会等を見に行く機会も設けている		継続していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	残念だが当ホームではお金は事務所で預かるシステムになっており個人が所有している方はほとんどおられない。日常のお使いの際に共有の食費のお金を払っていただいたりしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に同伴していただいたり、個人の買い物がある方のお供をして外出したりしている。誕生会などで外食することもある。外出おできになる方は限られており車椅子の方などは外出の機会はめっきり減っているのが現状である		お出かけが出来るうちに出来るだけ外出して頂きたいと思っている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お出かけの支援は出来るだけしている。家族の中にはお連れすることを好まれない方もおられるのでホームで外出の機会を作るようにしている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどご家族に出されるよう塗り絵のはがきなどを用意して塗り終われば出すようにしている。家族が気になられた時は電話掛けるようにお勧めしたりしている		継続していきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご来訪者は24時間受入れるようにしている居室やリビングあるいはテーブルでご自由に歓談していただいているお茶はもち論のことお三時にはおやつもお出しし御訪問が快いものと思っただけのよう配慮している		継続していきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアにホームを挙げて取り組んでいる。また身体的都合でベツ柵を使用しなければならない時はご家族の了解了承を必ず得ている		継続していきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は希望者が鍵をお持ちになりかけておられるが他の方々は鍵をかけずにお過ごしです。玄関のドアも開放され中庭には出入り自由だが、外に出て徘徊される方の身の安全のため門扉はロックされている		門扉野開放は理想だが現実ではまだまだ実践できない
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物が平屋でリビングキッチンの方に9名の居室があり一人一人の所在の把握がしやすい構造になっている。ワンユニット9名の所在はいつも把握しているように努めている		継続していきたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤などの保管はカーテンで式って目の付かないように工夫し、包丁などの器具も流しの扉の包丁刺しにカバーをしてしまっている居室でも異食の危険のある方は手の届かないところに石けんなどを保管している		継続していきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬を防ぐために薬を用意する職員と投薬する職員を分けている。転倒防止のために持ち場を離れる時は声掛け合っ見守りの職員が必ずいるようにしている火災は消防署の訓練を受け且つ電化され火は使用していない夜間も3回見回りをして事故防止に努めている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	嘱託医の看護師を講師として応急手当の方法などの講習を受けているがホームではまずバイタルを取って訪看に連絡を取り指示を仰ぐことになっている又訪看により個別に指導を受ける機会も持たれている		急変時には学んでいてもなかなか実践できないことが多々あるので訓練は続けていきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による訓練がありご近所の片も少数参加いただいた		継続していきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来訪時にADLの低下にともなう誤嚥のリスクや転倒の危険などをお伝えし職員のとっている対策を報告しご家族の要望もお聴きしている		継続していきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝一定時にバイタルを取り体調の変化がないかチェックしている。変化がある場合は直ちに訪看に連絡を取り指示を仰いでいる		職員は医学的知識が豊富でないので看護師の指導が仰げるので安心である
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルに服薬している薬の効用副作用が記されているので読むように努めている。また服薬チェック表を用いて飲み忘れの無い様になっている		服薬は支援しているが症状の変化の確認などは出来ていない
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト・牛乳はとるようにしている食物繊維の多い食材を使用するように心がけている。水分補給にも力を入れている。医師の処方により下剤を使用している方もある		継続していきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご家族の望まれる方は毎食後口腔ケアをしている自立の方はご本人にお任せしている。提携歯科医に定期的に診てもらっている方もおられる入床時には入れ歯の方は全員洗浄剤につけていただいている		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおむね出来ているが、食事が取れない時には代用食などお出しして食事量の確保に努めている。水分量の確保のためにも努力して1000は飲んでいた出せるように努めている		継続していきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所の決まりで共用の手ぬぐいの使用は禁止となりペーパータオルを使用している。手洗い激励冬場はうがいも激励されている		継続していきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	牡蠣などの食材は使わないようにしている調理用具まな板などもアルコール消毒が義務付けられている賞味期限の過ぎたものは入居者にはお出ししないことにしている		継続していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外回りを掃除して環境を整え、花壇には花を絶やさないように心がけ入居者や来訪者の心が安らぐようにしている		継続していきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のリビングには大きな吐き出し窓がありその向こうに植林場がありて四季の移り変わりがいながらにして楽しみ、食堂の吐き出し窓からは中庭の花壇の花々が楽しめる。食事中はクラシックの音楽を流して落ち着いた雰囲気でも過ごせる環境におられる		田舎で環境が良いことは感謝である
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓では気の合う方同士同一のテーブルに座っていただける。リビングでは思い思いに座っておられるが大体の定位置にお座りになっている。また自由に居室に戻って一人の時間をたのしんでおられる。		継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が良しとされるものを居室に使いやすく配置している		継続していきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏はエアコンで除湿もしくは冷房しすごしやすい環境を作っている冬は床暖房を使用し建物全体の温度の一定化をはかっている。一年を通じ清掃時には窓を開け換気を図り、夜間巡回時にも空調、温度に気をつけている		尿臭がする部屋には匂い消し等を設置しているがリハパンなどの交換などの促しをして匂いの元を断ち切るように努めたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋で段差がなく踏くことがないように設計されている。廊下やリビングには手摺がつけられ安全が確保され、車椅子でも行き来できる十分な広さがある。室内の装飾もシンプルで意心地の良い広いリビングとキッチンが生活の中心にある		9名がお三時するときにソファのお茶用のテーブルがひとつで足りないので補充したい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に手摺つきトイレ・洗面所が設置されているので各自自分の部屋で用を足していただいている。居室には利用者にとって馴染みのある家具や家族の選んだ家具が置かれている。		ホームの方針で名札を貼っていないが素敵な名札を貼ればお互いの名前も覚えやすくなるかもしれない
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が広く自由にウォーキングができる。また中庭にベンチを設置し散歩時に休息をとったり、外気浴やお茶の時間に使用している。花好きの利用者の方のために鉢植えの花が植えられ、水遣りや花がら摘みにいそんでいただいている		段差のあるところには手すりなどの設置をして安全を確保したい。花の世話は一部の利用者様のみ参加されているのでガーデニングなどに興味のある利用者様にもっと参加を働きかけるようにしたい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全てのよきものを人生の先輩たちに捧ぐ・・・この法人の理念に介護の全てがあるように思います